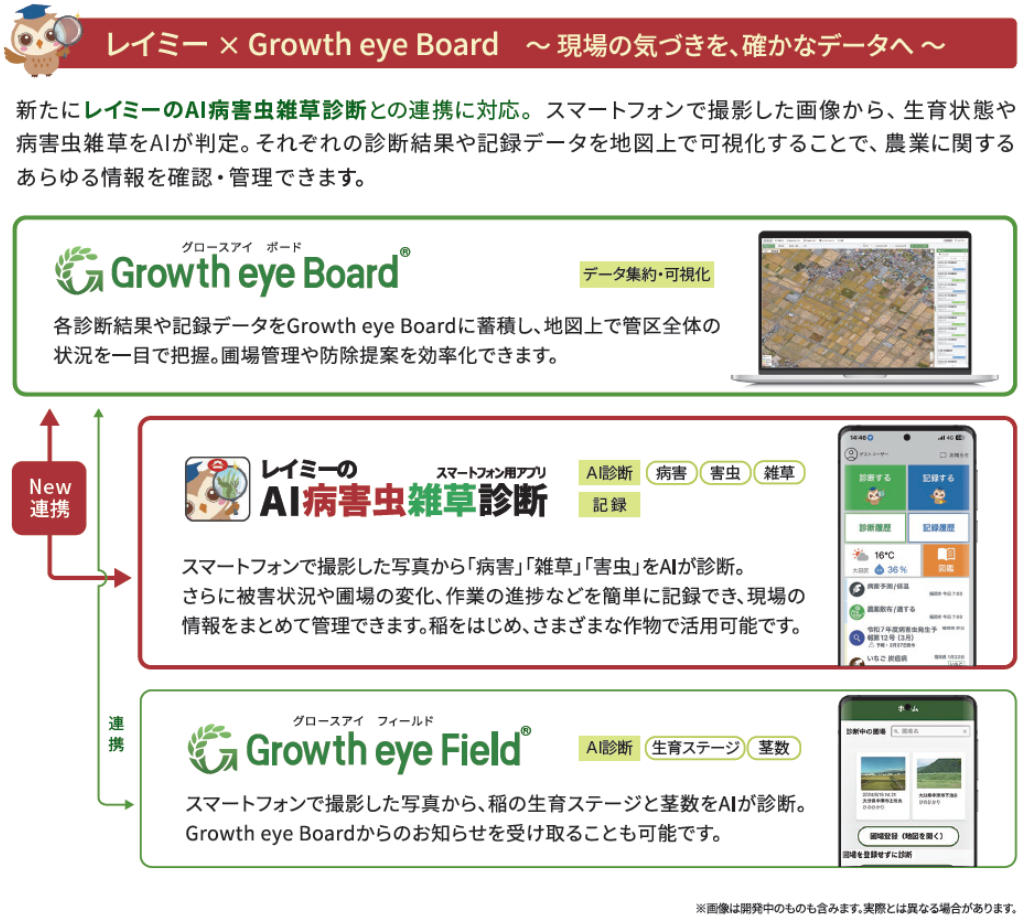
2026年6月23日

「レイミーのAI病害虫雑草診断」アプリ
AI画像診断ソリューション「Growth eye Board®」との連携を開始
～レイミーの診断・記録情報を地図上で一元可視化し、迅速な営農判断を支援～

日本農薬株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役社長：岩田浩幸、以下、「当社」）が提供するスマートフォン用アプリ「レイミーのAI病害虫雑草診断」（以下、「レイミー」）は、株式会社NTTデータCCS（以下「NTTデータCCS」）が提供する水稲AI画像診断ソリューション「Growth eye Board®」との連携を2026年5月27日より開始しました。

本連携により、レイミーで取得された複数ユーザーによる病害虫・雑草のAI診断結果や農業に関わる各種記録データを、「Growth eye Board®」の地図上に集約し、広域の情報を一元的に可視化できるようになります。



※画像は開発中のものも含みます。実際とは異なる場合があります。

（1）背景

近年、気候変動の影響により、作物の生育や病害虫の発生時期・発生地域が変化しており、農作物の安定生産や品質の維持・向上に対するリスクが高まっています。また、農地の集約化や人手不足などにより、広域にわたる圃場の状況を十分に把握することが難しくなっています。

こうした中で、生育状況や病害虫の発生、現場での作業や異常の兆候などの情報を、タイムリーかつ面的に把握し、関係者間で共有することの重要性が一層高まっています。しかし、これらの情報は個々の現場や担当者ごとに分散しやすく、全体像を一元的に把握することが困難であるという課題がありました。本連携は、こうした課題の解決を目的とするものです。

（２）本連携の特長

1. **複数ユーザーのレイミーデータを一元化　【情報の共有化】**
   複数ユーザーがレイミーで記録した病害虫・雑草の診断結果や作業記録を、「Growth eye Board®」上に自動集約します。
2. **地図上で可視化し、状況を一目で把握　【状況把握の迅速化】**
   各データは位置情報と紐づいて地図上に表示されるため、地域全体の病害虫発生パターンや生育状況、作業履歴を視覚的に理解できます。
3. **営農指導と防除判断を高度化　【意思決定支援】**
   俯瞰的な情報共有により、防除タイミングの最適化や地域全体の営農戦略立案を支援します。

（３）今後の展開

当社は、農薬メーカーとして培ってきた知見とデジタル技術を融合し、スマート農業分野における価値提供をさらに強化してまいります。レイミーを中心としたデータ活用と本連携サービスの提供を通じて、営農現場における意思決定の高度化と持続可能な農業の実現に貢献してまいります。

（４）お問い合わせ

レイミーおよび「Growth eye Board®」に関するご質問や資料請求、導入に関するご相談は、下記までお気軽にお問い合わせください。

■日本農薬株式会社　スマート農業推進部
Mail：smart_agri@nichino.co.jp

【NTT データ CCS について】

海底から宇宙まで。当社は創業以来、多様な領域で IT サービスを届けてきました。構想から実装まで一貫して手がける開発力を強みに、お客様の理想に寄り添いながら、技術でこたえ、変化の先をともに描く。誠実に、まっすぐに。それが、私たち NTT データ CCS です。

・会社名：株式会社 NTT データ CCS
・本社所在地：〒140-0002 東京都品川区東品川 4 丁目 12 番 1 号 品川シーサイドサウスタワー
・会社設立：1970 年 4 月
・資本金：3 億 3000 万円
・代表取締役社長：田口　茂
・URL：https://www.nttdata-ccs.co.jp/

【「Growth eye Board®」について】

NTT データ CCS が開発提供する電子地図ベースの水稲 AI 画像診断ソリューション。水稲の生育診断スマートフォンアプリ「Growth eye Field®」による稲の茎数や生育状況の診断結果、および今回の連携によりレイミーの病害虫・雑草診断データをリアルタイムで地図上に集約・可視化できます。

水稲 AI 画像診断ソリューション「Growth eye Board®」（https://www.nttdata-ccs.co.jp/solution/suitou.html）

＊「Growth eye Board®」、「Growth eye Field®」は日本国内における株式会社NTTデータCCSの商標です。

以上

Global Innovator for Crop & Life